

「自由は不自由？」

教育企画推進部 廣岡 力

「自由にテーマを決めて探究を進めてください」
10年前の自分も、そんなことを言われた記憶があります。一見「自由」と聞くと、なんでもできるとか、制限がないとか、ポジティブな印象をもつことが多いように思います。しかし、よくよく考えてみると「自由」ほど苦しいものはありません。

【夕食の「自由」】

「何を食いたい？」一食に何を作ろうか迷った際によく聞かれる言葉です。多くの人は「なんでもいいよ。」と答えるのではないのでしょうか。この言葉には2つの自由があると私は解釈しています。1つ目は、何を食いたい自由で答えていいという自由と、なんでも食べられるから何でも自由に選んでほしいという自由です。しかし、この自由には双方に隠れた制限があります。例えば、何を食いたいと聞かれて、「超高級食材を使ったフレンチが食いたい」と回答したらどうでしょう？もしくは「なんでもいいよ。」と言っておいて、自分が嫌い・苦手なご飯が出てきたらどうでしょう？結局、自由には制限があり、その塩梅を決めるのは他でもない自分の好き・嫌いなどの内側にあるもの（この”もの”は知識や感情など様々）や、冷蔵庫にある食材といった外的な環境によります。

探究活動においてはどうか？なんでも探究できるからと言って、大学の最新設備が使えるわけではありませんし、それを扱う知識や技能があるかもわかりません。そこには制限があります。だからこそ、「なんでもいい」という自由が、かえって不自由に感じることもあるのです。

【自由をどう扱うか？】

では、その自由をどのように制限をかけるのか？その答えは、選択肢を狭めることです。夕飯の例でいえば、「ハンバーグかオムライスどっちがいい？」と聞かれたら選びやすくなります。「冷蔵庫には何が

あるの？」と聞けば、具体的な制限が見えてきます。

探究活動においても、「自分が好きな事は何か？」や「学校にある設備は何か？」「自分が知っている知識は何か？」こうした問いを重ね、選択肢を整理することが大切です。「なんでもいい」は決して「なんでもいい」ではありません。

【大人の「自由」と責任】

大人になるとすべてが「自由」になります。「転職すべきか」、「家を買うべきか」、「老後はどうするか」—すべて自由であり、同時に不自由です。自由な選択がすべて自分の責任として、のしかかってきます。だからこそ、その「自由」と向き合い、自分にある制限をかけながら慎重に選択していくことが求められます。ところが現代では、Instagram や TikTok といった効率的な情報拡散 SNS ツールが広く普及していたり、短時間で多様な情報が得られる生成 AI が浸透したりしてきています。それに伴い、若い世代を中心に広くタイパ・コスパが重視され、あまり自分の選択肢と向き合う機会も少ないのではないかと危惧しています。このような現代で、自由が広がった「探究」はその自由と向き合い、悩み、選択していく1つのきっかけでもあるのではないかと私は考えています。

思う存分悩み、そして自分にある制限と向き合ってほしい—それが探究を通して成長してほしい私の願いの1つです。

各学年 探究授業の実施報告

1月29日（木）1年類型

「探究入門」探究構想発表会

1月29日には、第2学年から本格的に始まる探究活動に向けて、テーマ決定の意思表示となる「構想発表会」を実施しました。生徒40名を4つのグループに分け、各教室で10名ずつ個人テーマのプレゼンを行いました。今回は進捗発表会とは異なり、テーマへの内発的動機や問いの設定、研究手法の具体化に重点を置き、各自が探究への思いを言語化しました。また、大学生アドバイザーにも参加していただき、発表内容に対する専門的な助言を受ける機会となりました。生徒の活動ログからも、今回の発表を通

して探究活動への意欲が一層高まった様子がかがえました。

＜生徒の感想から＞

・OBの方に様々な方面から鋭い質問をされ、まだまだ自分の探究に対する考えは甘く、改善点がたくさんあるのだと思った。特に、探究していくうちにテーマから外れていってしまうことが多いと教わったので、動機を忘れず心に留めておくべきと感じた。

・自分が決めたテーマと解き明かしたい問いが少しずれてしまうこともあったので、そこを治したいと思いました。また、発表する時に自分が好きという気持ちを伝えられるようにしたらいいと言われ、やってみようと思いました。

・やりたいことやロジックが複雑で多いのでそれら全部を一気に説明するのではなく、結局自分は2年生に何を実現させたいのかを明確にし、その説明に必要な情報だけを取捨選択して簡潔に話すことが聴衆の理解を得る上で重要だと分かった。



台湾国立羅東高級中学校

来校訪問・ホームステイ 実施報告

1月30日（金）～2月1日（土）で、台湾国立羅東高級中学校の来校訪問およびホームステイ交流事業を実施しました。羅東高中はSSH台湾研修における主要な訪問交流先で、同校において課題研究発表会を行い、3泊4日の全行程をホームステイで滞在し、じっくりと関係性を深めて探究活動につなげているというのが特色です。詳細は本教育企画通信のvol.15をご覧ください。

＜1日目：1/30（金）＞

前日まで大阪市内などで研修を実施していた羅東高中の生徒13名、教員3名が8時半ごろに来校し、SSH台湾研修の参加者や生徒スタッフで歓迎会を実施しました。各班で様々な文化交流を準備しており、交流を深めることができました。

その後、午前中にはホームステイを受け入れている生徒の授業を中心に、本校の授業を体験しました。英語の授業では留学生を招いて行うディスカッションの授業に参加してもらい、活発な議論が交わされました。



昼食は新長田のお好み焼き店「いろは」さんのお好み焼き、焼きそば、回転焼きを堪能しつつ本校生徒と交流を深めました。昼食後は2年類型「探究A」で探究に関する3分の英語プレゼンテーション（3MT）発表会を行い、羅東高中の生徒からも発表がありました。ホームルームの時間帯では1年生はカルタ大会に参加し、2年生では各クラスで交流を深めました。中には豆まきを実施するクラスもあるなど、様々な日本文化を体感しました。



放課後は部活動見学・校内見学を実施し、夕方にはホームステイ受入家庭の保護者の皆様にご来校いただき、対面式を実施しました。その後、各家庭で過ごすこととなりました。



<2日目：1/31（土）>

朝は各家庭で過ごし、10時に人と防災未来センターに集合しました。SSH 台湾研修では日台の共通する社会課題である「地震をはじめとする防災・減災」に関する探究活動の一環として、台湾国立国家地震研究工程中心などの施設を共同で訪問していますが、それらと同趣旨の研修を日本でも実施することとしました。

人と防災未来センターでは映像や展示により、阪神・淡路大震災の実態に触れ、日本と世界の様々な災害対策について理解を深めました。展示を紹介しながら日本と台湾の災害対策について英語で情報共有する様子からは、本校の探究活動と防災教育が阪神・淡路大震災 30 年の教訓に基づいて成り立っていることがうかがえました。



人と防災未来センターで 12 時に解散し、その後は市内自主研修に移りました。事前のオンライン交流を経て行先を各班で決定し、昼食や施設訪問で様々な交流を重ねました。17 時に神戸駅前で解散し、その後はルミナリエを訪問したり、各家庭で過ごしたりするなどしました。



<3日目：2/1（日）>

朝食を各家庭でとり、8 時に湊川神社正門前に集合しました。航空便の関係上、早い時間の集合となってしまうりましたが両校の生徒たちは名残惜しそうに言葉を交わし、最後に集合写真を撮影して解散となりました。羅東高中の生徒・教員はその後関西国際空港へ向かい、台湾への帰路につかれました。



本事業の実施、とりわけホームステイ受入事業に際しては保護者の皆様到大変お世話になりました。皆様の温かい歓迎に羅東高中の生徒たちは深い感銘を受けたようでした。また、本校の国際交流においても非常に大きな意義のある事業であったと考えております。ご協力、心より御礼申し上げます。今後とも、本校の実施する国際交流事業へのご支援、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

<ホームステイ受入生徒・保護者の感想から>

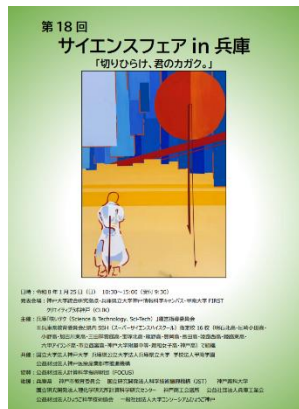
・今回受け入れた生徒さんは日本語が流暢で、ホームステイ中は日本語を話す練習をしたいとのことだったため、ほぼ日本語で会話し、通じない部分だけ

英語で補うという感じでした。今回来られた羅東の生徒さん達は、台湾の中でも成績優秀な学校かつ優秀なクラスの方らしく、親日なうえ人柄もよくて安心して受け入れることができました。

・今回このような機会に携わることができ弟たちも含め、とても良い経験ができました。夢のような3日間で、お別れした次の日の月曜日は、一気に現実に戻った気分になりました(←長男が嘆いていました) 次回また受け入れさせていただきたいので、英語でのコミュニケーションが少しでも出来るように勉強しておきます。本当にありがとうございました。

サイエンスフェア in 兵庫 参加報告

サイエンスフェアは、今年で18回目を迎える県内SSH指定校と県教育委員会からなる組織が主催しており、SSH関係では県内最大の発表会です。本校からは2年8組の8班が参加しました。高校生



の発表だけでなく、企業の出展、大学の発表、サイエンスカフェ等も実施されました。

日時：令和8年1月25日(日)

場所：神戸大学統合研究拠点・兵庫県立大学神戸情報科学キャンパス甲南大学 FIRST・クリエイティブラボ神戸 (CLIK)

【本校からの参加】

●ポスター発表(8班)

『コケの種類による屋上緑化の効果比較に向けて
～温度変化と雨水流出抑制に着目～』

『災害時に太陽光で、湯たんぽに使える湯を作る』

『江戸時代の洗濯における灰汁の有用性』

『巨大数を生み出す数列について』

『塩析時の有機酸によるカゼインプラスチックの曲げ強度変化』

『均一な濃度で解凍できるスポーツ飲料の開発』

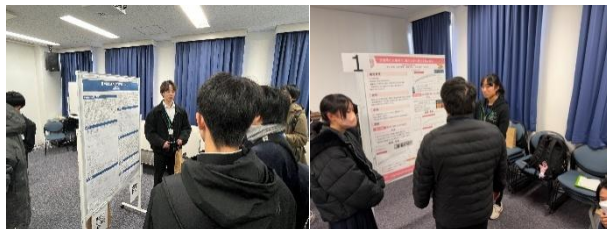
『花粉の種類による花粉光環の違い』

『噴出孔から噴出される粒子の堆積範囲

～周囲の流体の粘度と密度との関係について～』

●口頭発表(1班)

『コケの種類による屋上緑化の効果比較に向けて
～温度変化と雨水流出抑制に着目～』



2年生特色類型 探究

外部発表会の成果報告

兵庫県高等学校探究活動研究会

令和8年2月11日(土) 1班が参加

『見落としやすい誤植とはどのようなものか』

⇒金賞



編集後記

年度末が近づいております。教育企画推進部では様々な事業を実施してきましたが、今号ではその様々なジャンルが記載されているものと思います。また、3月6日に開催いたしましたSSH探究成果発表会も、お陰様で盛会のうちに終わることができました。その模様も、今後の号でご報告いたします。ご来場、ご支援ありがとうございました。